

2019年2月7日

T細胞リンパ腫の検出方法が特許登録

特許権者：知的財産戦略ネットワーク株式会社

国内独占的通常実施権者：株式会社LSIメディエンス

株式会社LSIメディエンス

三菱ケミカルホールディングスグループでヘルスケア分野の検査・分析関連事業を行う株式会社LSIメディエンス（本社：東京都千代田区、社長：渡部 晴夫、以下「LSIメディエンス」）が知的財産戦略ネットワーク株式会社（本社：東京都千代田区、社長：秋元浩、以下「IPSN社」）から国内独占的通常実施権を許諾されているT細胞リンパ腫の検出方法について、このたびIPSN社が特許を取得^{(*)1}しました。

T細胞リンパ腫の検出方法は、筑波大学医学医療系教授 千葉滋先生等が行ったRHOA遺伝子変異に関する研究をその基盤としています。同検出方法の確立は株式会社産業革新機構が中心となって創成した我が国初のライフサイエンス系知財ファンドであるLSIPファンド運営合同会社（以下、「LSIP社」）の成果です（2017年1月にIPSN社がLSIP社から地位および権利義務を承継）。LSIメディエンスは同検出方法の国内独占的通常実施権を2016年1月に取得し、その後2018年4月には独自の高感度検出法（PNA-LNA PCR Clamp法^{(*)2}）を用いて、医療機関や製薬企業向けにRHOA遺伝子変異解析検査（検査項目名：RHOA G17V変異解析）の受託を開始しました。

RHOA遺伝子G17V変異は、血管免疫芽球性T細胞リンパ腫と末梢性T細胞リンパ腫の一部で特異的に検出されることから、その検出結果は悪性リンパ腫の診断に有用です。今後、本遺伝子関連分子を標的とする新たな治療薬の開発も期待されることから、その有用性は一層高まるものと思われます。

LSIメディエンスは、臨床検査事業や創薬支援事業などの検査受託事業において遺伝子関連検査の充実・拡大を図り、検査サービスを通して人々の治療・健康増進に貢献し、KAITEKI社会の実現を追求してまいります。

(*)1 特許番号：特許第6449147号、登録日：2018年12月14日

(*)2 PNA-LNA PCR Clamp法：天然型DNAよりも安定な2重鎖を形成するPNA（Peptide Nucleic Acid ペプチド骨格を持つ核酸類似体）とLNA（Locked Nucleic Acid 人工核酸）の特性を利用し、PNAプローブで野生型の増幅を抑制し、LNAプローブで変異型を検出する高感度PCR法（ポリメラーゼ連鎖反応 選択的DNA増幅反応）。

【LSIメディエンス 関連検査の概要】

検査名称	RHOA G17V 変異解析
検査法	PNA-LNA PCR Clamp 法
検査実施料	未収載
検査日数	6～12日
検査材料	EDTA 加血液、骨髓液、組織、未染スライド標本 パラフィン切片

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社LSIメディエンス 総務・法務・知財部 総務グループ 広報担当
TEL 03-6896-8926